

令和5年度全国中学校体育大会 第53回全国中学校バスケットボール大会・審判研修会

参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和5年度全国中学校体育大会 第53回全国中学校バスケットボール大会・審判研修会		
●日程	令和5年8月21日 (月) ~ 令和5年8月24日 (木)		
●会場	高松市総合体育館・高松市香川総合体育館・善通寺市民体育館三豊市総合体育館 (以上、本大会)・サンメッセ香川(審判研修会)		
●講師	加藤 暁生様 福岡 敏徳様 東條 輝正様 市川 雄介様 岩月 遼司様 武田 亜沙美様 赤羽 沙耶様 古畑 咲様		
●スケジュール	令和5年8月21日 (月) 審判研修会(会場:サンメッセ香川)		
	<p>14:00 挨拶 JBA審判委員会審判委員長・本大会審判委員長 前田 喜庸様 JBA審判委員会U15担当・本大会審判副委員長 加藤 暁生様 香川県バスケットボール協会審判委員長・本大会審判副委員長 仲地 祥吾様</p> <p>14:10 審判研修会(座学研修)</p> <p>研修1 研修テーマ設定の意図について・大会運営にあたって(担当:加藤暁生様・東條輝正様)大会運営について(本大会確認事項・行動規範等)マンツーマンディフェンス基準規則と審判の対応について</p> <p>研修2 コール・ザ・オヴィアス ①コール・ザ・インパクト、ベーシックなプレーコーリング(担当:福岡敏徳様・武田亜沙美様)シリンダーはチーム(プレーヤー・コーチ)も気にしている。ルールブック・プレーコーリングガイドライン→チームも見ているケガにつながるイリーガルなプレーとは…? ②3POメカニクスからの分析(担当:市川雄介様・岩月遼司様) T・CはFULが確認できるポジションへアジャストorステイプレーヤーの特徴…シューター・スラッシャー・ポストマン。明らかなコンタクトが判定できない…自分自身やクレーが苦しくなる。メカの理解→「自分がみえないものは、クレーが見えている」</p> <p>研修3 処置ミスゼロをめざして(担当:赤羽沙耶様・古畑咲様)公正かつ円滑にゲームを運営…プレーヤー・コーチ・観客からの信頼を得られる。TO管理・連携、ゲームの展開(接戦)、残り時間(タイマー・ショットクロック)、イレギュラー→ノイズが処置ミスの大きな要因の一つ「あっ」と気づく→対応の術…一人で解決しようとする焦り(パフォーマンスが発揮できない)クレーで時間・ファウルの回数(個人・チーム)・FTシューター・再開方法等の確認。→仲間(クレー)と安心してコートに立つことが大切。</p>		
●担当試合	令和5年8月22日 (火) 16:10 ~ 男子予選リーグ 会場:高松市香川総合体育館		
	対戦カード	北見市立南中学校(北海道) VS 高松市立香東中学校(香川県)	
	主審	CC: 草野申明氏(東京都) U1: 石川淳也 U2: 古瀬和也氏(佐賀県)	
	講師/主任	岩月 遼司様(JBA本部)	
	講評	・開催地チームが敗戦、3つ巴で予選リーグ敗退となるゲームだったが、プレーヤーの技術で決着をつけることができたと感じる。クレーワークも良く、それが判定にも結びついており、ゲーム全体も大きな問題・トラブルなく、ゲームを無事に終了できたことが良かったと思う。・テンポセットで、オヴィアスなケースを1Qの早い段階で草野氏・石川でコールを積み重ねており、コンタクトの数・質が変化した3Qからの対応も良かった。キープレーヤーのオフenseファウルを取りあげ、GoodCallでありかつ効果的であった。・クロック管理も意識して、2回時間が流れたが、マジックタイムを持ち、対応も適切であった。・OBBで難しいケースが1つあった。(DEFに当たったかどうか微妙でリングの支柱に当たったケース)→Lでは見にくいので、Cからヘルプに入ってほしいケースだった。	
	自己の感想	・最終試合でゲームも1時間ほど遅れての開始、結果的に開催地チームの3つ巴による敗戦のゲームであったが、クレーの協力でゲーム全体では、チーム・TO・クロック管理も含めて大きなトラブルもなく、ゲームを無事に終わられたと感じている。・キープレーヤーへの対応に神経を遣ったが、クレー全体でキープレーヤーにコミュニケーションを取り、フラストレーションをためさせないように対応できたと思う。・突発的なプレーに対する対応(OBBのヘルプ)は大きな反省点である。プライマリの判定の尊重は大原則であるが、明らかに違うものについては、CCMを発揮してヘルプすべきだった。結果的に自信(確証)がなく、ヘルプに行けなかったことが反省である。その1つの判定がクローズアップされるので、一つひとつの判定の積み重ねの大切さを痛感した試合であった。	

●担当試合	令和5年8月23日 (水) 10:50 ~ 女子決勝トーナメント1回戦 会場:善通寺市民体育館	
	対戦カード	春日部市立豊野中学校(埼玉県) VS 盛岡白百合学園中学校(岩手県)
	主審	CC: 石川 淳也 U1: 宮内遥氏(愛知県) U2: 古瀬和也氏(佐賀県)
	講師/主任	北沢 あや子様(開催地・香川県)
講評	<p>・試合も緊迫した展開となり、常にクレーで情報共有しながら、1試合通してクレーで判定を積み重ねることもできて、クレー全員で試合運営ができたことが良かった。</p> <p>・ゲーム序盤からセカンダリ・3番手で笛が入ることが多かった(主に石川がコール)が、クレーの2人の存在感を含め、クレーワークがどうだったかは検証してほしい。</p> <p>・盛岡白百合のキープレーヤー(G・C)で、Cに対する豊野のディフェンスの仕方では2つほどコールしてほしいもの、またGのリアクション(ファウルをもらおうとする)については、フェイクをつけるまでは至らなくてもコミュニケーションの取り方を検証してほしい。</p> <p>・セカンダリ・3番手でコールしたケースはGoodCallであったが、笛がジャストに入ったケースもあり、笛を入れるタイミングは考えてほしい。(ゲームフローやクレーの状況等で焦ってコールしているように受け取られる。)</p>	
自己の感想	<p>・研修会での内容をベースに、メカ・プレーコーリング・ポジションアジャストに重点を置いてPGCを行った。石川と古瀬氏は前日男子ゲームだったので、前日女子ゲーム担当の宮内氏に情報をいただきながらチームのスカウティングを行い、チームのキープレーヤー・プレースタイル等のチーム情報も共有して試合に臨むことができた。</p> <p>・昨日の反省を生かし、CCMを發揮して明らかなケースについては、セカンダリ・3番手でコールして、緊迫した試合展開でしたが、大きなトラブルなくゲームを終了することができたことは良かったと思います。</p> <p>・3Qの4:45でタイムアウト、TOの誤操作で2:45になったケースも時間を把握して、修正できたことも良かったと思います。</p> <p>・セカンダリ・3番手でコールしたケースについては、レイトコールではなかったことは自分自身のメンタルの状況が周囲に伝わっていたと感じさせてしまったことは反省である。CCとしてもゲームフローやクレーの状況を見て、いつ・どのような状況でも対応できるような懐の深さを持つことが課題である。</p> <p>・研修会、本大会を通じて、改めてベーシックの理解と徹底が必要だと感じました。日頃から頭では理解してもオンザコートで適切に適用できるように、研修会でもあった「TRY & ERRORで身につけること」を意識して、今後の審判活動にも積極的に取り組み、研鑽を積んでいきたいと思っています。</p> <p>・本大会で自分の力量やCCとしてクレーの力量を發揮できることはある程度できたことは大きな収穫でした。ただ、プレーコーリング・CCM・セカンダリ(3番手)の笛を入れるタイミング・突発的なプレーの対応等に課題も残りました。これは私の課題でもある「ゲームコントロール」に直結しています。今後の審判活動の中で課題克服に取り組んでいきます。</p> <p>・本大会開催にあたり、JBAU15担当加藤様・講師のみなさま・開催地香川県のみなさまには、ご準備から研修会・本大会の運営と本当にお世話になり、ありがとうございました。また、久しぶりの全中派遣で全国のみなさまとお会いして交流できたことや本大会の審判を担当することができ、新たな発見・学びの場となりました。改めて感謝申し上げます。</p> <p>・最後になりましたが、派遣に関してご高配を賜り、貴重な経験をさせていただきましたことに、細見委員長をはじめ、大阪府協会審判委員会のみなさまに感謝申し上げます。この貴重な経験を今後の審判活動に生かし、S級昇格を目指して審判活動に取り組んでいきます。今後とも、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。本当にありがとうございました。</p>	
●会場	各自担当試合の時間にあわせて集合(3日間とも9:30第1試合開始)→輸送バスで移動	